

災害時の対応のためのネットワーク

～広域防災に貢献する荒川～

緊急用河川敷道路、緊急用船着場、防災ステーション等を整備しています。

荒川上流部改修から
100年
1918-2018



災害時の緊急輸送路として期待される緊急用河川敷道路



浮間地区荒川防災ステーション



緊急用船着場（リバーステーション）

広域防災に貢献する荒川

1995（平成7）年1月に発生し、大きな被害を出した阪神淡路大震災（兵庫南部地震）の経緯から、災害時における川の活用が改めて見直されました。荒川の河川敷には、河口から国道16号までを縦貫する「緊急用河川敷道路」を整備しています。この道路はいざという場合にのみ使用するもので、普段は河川敷として利用できます。

また、舟運を活用した災害復旧活動の拠点となる緊急用船着場（リバーステーション）の整備を行っており、河口から秋ヶ瀬取水堰まで14か所の整備を計画しています。

そして、水防活動の為に資材を備蓄するなど、災害復旧活動を行うための基地となる河川防災ステーションの整備も行っています。

▶ 広域防災対策 いざというときのために

大規模災害時、荒川に整備されている緊急用船着場は、舟運を利用した災害復旧の拠点の場となるほか、沿川市区への敏速な物資輸送の要となることが期待されています。

そして、緊急用河川敷道路は、緊急用船着場と接続し、救急や救命、災害時の物資の輸送路等になります。

また、首都直下地震など大規模な震災があった場合、荒川に整備されている河川防災施設(緊急用河川敷道路・緊急用船着場・河川敷ヘリポート)を有効に活用できるように警察、消防、自衛隊等の実動機関及び沿川自治体と連携して実動訓練をおこなっています。



緊急用船着場を利用した緊急時の輸送体制

▶ 西遊馬（にしあすま）地区河川防災ステーション

洪水被害を最小限に食い止めるため災害時の緊急復旧活動を行う上で必要な緊急用資材を備蓄すると共に、駐車場や緊急時用ヘリポートのほか、さいたま市が設置する水防センター等を配置し、迅速かつ円滑な復旧活動の拠点として整備するものです。

また、平常時には地域の交流・憩いの場としての活用が可能となります。



完成予想図(洪水時)

▶ あきがせ緊急用船着場

大規模災害時に復旧資材や救援物資等を河川を通じて搬入、荷揚げするため、整備するものです。

緊急用河川敷道路との連携により、重機や復旧資材を、東京湾から首都圏を環状に走る国道16号まで一般道を使用せずに、輸送することが可能となります。



整備箇所図

アクセス

西遊馬地区河川防災ステーション

交通：JR川越線「指扇駅」下車、徒歩17分

住所：埼玉県さいたま市西区西遊馬

あきがせ緊急用船着場

交通：東武鉄道東上本線「志木駅」下車、国際興業バス

「双葉町」行き乗車、「秋ヶ瀬橋」下車、徒歩14分

住所：埼玉県志木市宗岡



西遊馬地区河川防災ステーション



あきがせ緊急用船着場

